

「第1次防衛機構」と「第2次防衛機構」の役割

●第1次防衛機構「要は細胞間脂質のラメラ構造」

第1次防衛機構の要は細胞間脂質のラメラ構造で、皮膚の最前線で外部からの有害物質や水分の蒸散を防ぐ役割を果たします。具体的には、細胞間脂質のラメラ構造がこの役割を担っています。この脂質層は、外部からの紫外線や細菌などの異物の侵入を防ぎ、内部からの水分蒸散を防ぎ、皮膚のバリア機能を維持し、内部の水分を保持しています。

●第2次防衛機構

第2次防衛機構は、第1次防衛機構が損傷した場合に発動される防御メカニズムです。これには主に二つの反応があります：

1. 角質肥厚：皮膚が厚くなることで、紫外線・細菌・化学薬剤などの異物侵入や水分蒸散からの防御を強化します。しかし、これが乾燥やゴワゴワ感、毛穴トラブル、シワ・シミ・たるみなどの原因となります。
2. 免疫反応：皮膚バリアが壊れると、水分が蒸散し、紫外線・細菌・化学薬剤などの異物が角質層の下へ侵入しやすくなります。これにより、白血球が活性酸素を生成して異物を攻撃します。その結果、発疹や炎症、痒みなどの症状を伴う敏感肌やアトピーなどの炎症性皮膚疾患が発生しやすくなります。

このように、第1次防衛機構は日常的なバリア機能を担い、第2次防衛機構は損傷時の緊急対応として働きます。どちらも皮膚の健康を守るために重要な役割を果たしています。

第2次防衛機構が発動すると、様々な不快な症状、いわゆる肌トラブルが発生します。この問題を解決するためには、皮膚の巧妙な防衛機構を理解することが不可欠です。しかし、現在の対処療法（スキンケア）の多くは一時的に症状を和らげる対症療法に過ぎません。この事実を理解している人はほとんどいません。